

## 保有特許の解析による 北見工業大学の強みの抽出と可視化の可能性

○鞘師守\*、川口将来\*\*、内島典子\*

(\*北見工業大学社会連携推進センター、\*\*北見工業大学工学部・現三菱電機ビルテクノサービス株式会社)

### 1. はじめに

産学官連携活動を通じた社会貢献は大学の重要な使命であり、その推進には大学の強みに対する正しい認識が不可欠である。北見工業大学においても従来から強みとされているいくつかの特徴があるが、それらは必ずしも客観的なデータを背景とした認識とは言い難かった。そこで本研究では、これまで本学の強みとされてきた研究領域を、特許保有状況の解析から抽出することの可能性を検討した。さらに、産学官連携活動に用いるための有効なツールを得ることを目的とし、確認することができた研究上の強みを表現する特許マップを試作した。本学の代表的な強みとされる、「寒冷地域に関連の有る研究」について行った上記検討の結果を報告する。

### 2. 方法

特許保有状況を他校と比較し得るよう、独立行政法人工業所有権情報・研修館の特許電子図書館 (IPDL) から入手可能な平成 25 年 8 月時点での公開特許権利を検討の対象とした。得られた保有特許情報を用いて、分野別、学科別、パートナー種別などの権利保有数データを解析した。また、比較対象校として本学と類似した環境・属性を持つ大学を挙げ、「寒冷地域に関連の有る研究」の観点から特許保有状況について対比・解析を行った。これにより、「寒冷地域に関連の有る研究」を本学の強みと見る従来からの認識について、客観的な特許保有状況のデータを用い確認・表現することの可能性を検討した。

### 3. 結果と考察

1) 北見工業大学の保有特許のうち、「寒冷地工学関連の特許」およびそれ以外の「寒冷地域に関連の有る特許」の件数はそれぞれ全保有特許権利件数の約 10%、15%ほどを占め、それらを合わせた件数は全保有特許権利の 1/4 に上ることが明らかとなった (図)。さらに、本学と類似の環境にある他大学の特許保有状況との比較・解析を行った結果、寒冷地工学研究を含む「寒冷地域に関連の有る研究」が強みであるとの本学の特徴が、特許保有状況に明確に現れた。

2) 「寒冷地工学」の特許は、全て産業界との共同研究により生まれた共同出願特許であった。また、その共同研究パートナーは北海道外にも及んでいた。本学は、地域の特徴である寒冷・冷涼な気候環境を活かしその研究上の強みを発揮し、寒冷地工学分野で共同研究の拠点として活動していることを、保有特許のデータから認識することができた。

3) 社会基盤に関する特許は全て寒冷地域に関連しており、また情報通信分野以外の広い分野で「寒冷地域に関連の有る特許」が取得されていた。本学では多分野の研究者が地域の特徴を反映した寒冷地域特有の課題に取り組んでいることを、特許マップに表現することができた。

### 4. まとめ

1) 北見工業大学の強みの一つとして「寒冷地域に関連の有る研究」が挙げられることを、特許保有状況の解析により示すことができた。また、本学の研究上の強みを表現した産学連携活動ツールの一つとして、寒冷地域に関連する特許の分布を示す特許マップを得た。

2) 寒冷地域に関連する研究に留まらず本学の他の強みについても、特許の保有状況を解析することにより認識し得ると考えられた。さらに、それらの解析結果を特許マップ化することにより、本学の研究面での強みを表現した産学官連携活動ツールを得ることができると考えられた。

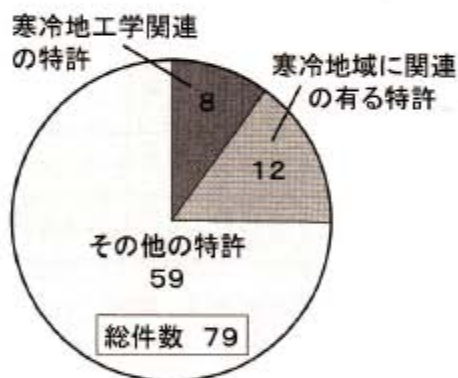


図 北見工業大学の保有特許権利に占める、「寒冷地工学関連の特許」、「寒冷地域に関連の有る特許」の件数